

授業改善のための振り返りシート

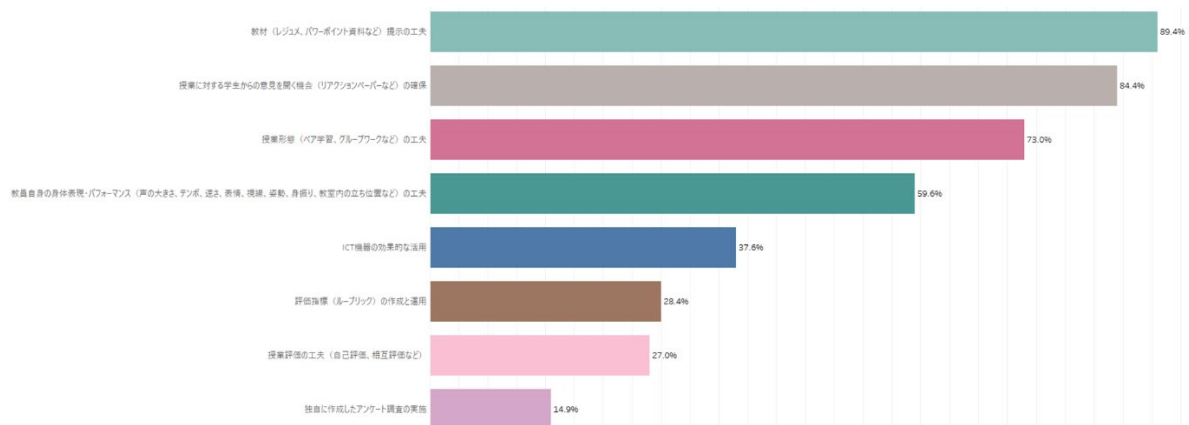
1. 企画趣旨

本資料は、2023 年度より「授業改善のための振り返りシート」をトライアルにより実施しました。今年度は2回目となります。こちらは2024 年度の調査結果を分析、整理したものです。本シートの目的は、今年度の授業を振り返り、来年度の授業改善に向けた手掛かりを獲得すること、もしくは授業改善の行動を促すことを狙っています。教員相互の参考資料となれば幸いです。

2. 回答状況について（回答者合計 141 人）

所属	人数
健康栄養学科	6
食物栄養学科	4
食品開発学科	5
人間福祉学科	9
幼児教育学科	5
児童教育学科	14
心理学科	9
文芸文化学科	9
社会情報デザイン学科	9
大学所属機関（センター等）教員	2
非常勤教員	69
総計	141

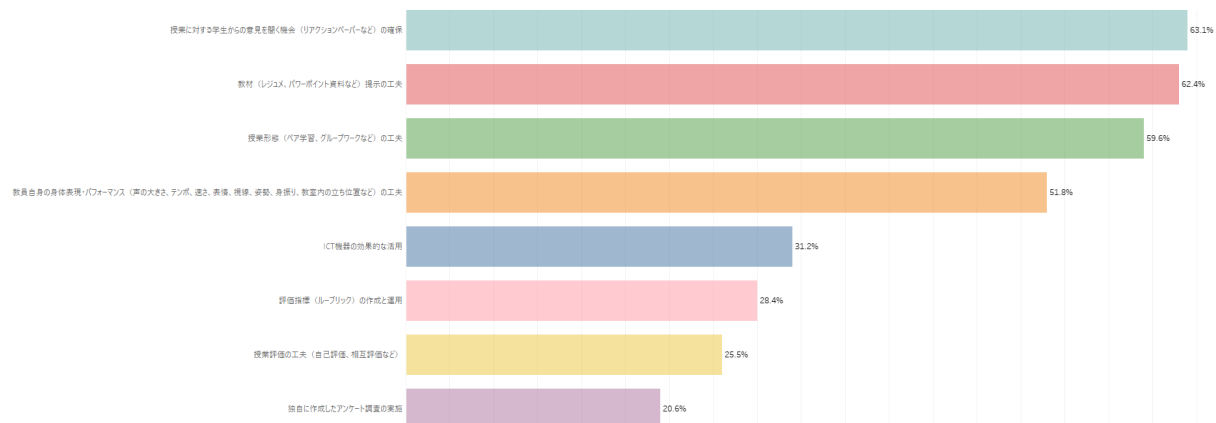
3. 授業実施（学修内容・学修方法・フィードバック等）において、工夫した点について（入力必須 複数選択可）



常勤、非常勤教員ともに「教材（レジュメ、パワーポイント資料など）提示の工夫」が 89,4% で最も高く、次に、「授業に対する学生からの意見を聞く機会（リアクションペーパーなど）の確保」が 84,4% と次に高かった。本学教員の授業実施については「教材提示」の工夫、学生からのフィードバック機会の確保に力を傾注していると考えられます。特に後者においては、この結果に対応する自由記述として「授業に対する学生の意見に対するフィードバック」、「科目によっては、毎回のリアクションペーパーでの質問に、すべて個別に回答した」があり、授業内において学生と教員との対話の機会を確保しようとしている取り組みも読み取れます。

一方、「評価指標（ルーブリック）の作成と運用」は 28.4%、授業評価の工夫（自己評価、総合評価など）」は 27.0% と評価に関する項目は低く、評価に関する運用が今後の課題であると考えられます。

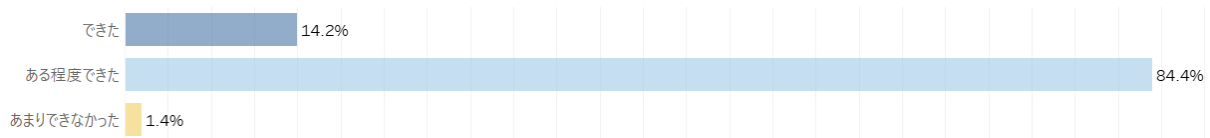
4. 来年度取り入れたい工夫（学修内容・活動・ツール等）（入力必須 複数選択可）



来年度の授業改善の工夫についての回答では、常勤、非常勤ともに「授業に対する学生からの意見を聞く機会（リアクションペーパーなど）の確保」が 59,7% ともっとも高く、次に「教材（レジュメ、パワーポイント資料など）提示の工夫」が 58,3% と高く、この結果は上記「3. 授業実施（学修内容・学修方法・フィードバック等）において、工夫した点について」の結果とほぼ対応しています。

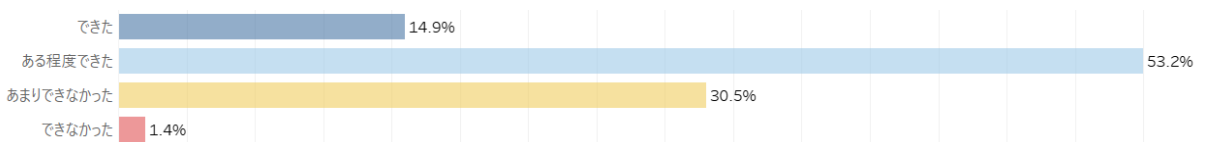
また 3 番目に高かった項目は「授業形態（ペア学習、グループワークなど）の工夫」（52,8%）で、これは今日のアクティブラーニング形態等に基づく協働的学習の取り組みを意識されているものと思われます。

5. 今年度の授業実施において、シラバスにある到達目標を学生に身に付けさせることができたか（入力必須）＊選択



常勤、非常勤教員ともにほぼ 100% 近く「できた」「ある程度できた」と回答していました。その回答した理由として自由記述から、学生の授業評価アンケートの結果、当該教員が授業内に実施したテストの結果やレポート課題やリアクションペーパー、リフレクション記述など学生からのフィードバックや成果物から判断していることが読み取れます。また、2024 年度の授業評価アンケートの全体結果からも、「シラバスにある、この授業の到達目標を達成したと感ずることができましたか」という質問に対して、「とても感ずることができた (32.5%)」、「多少は感ずることができた (54.0%)」という回答結果でした。ほとんどの教員が到達目標を意識した授業を設計し運営していることがこの結果から確認できますし、学生もおおむね到達目標を達成したと感ずているようです。しかし、教員が求める学生に達成させたいコンピテスに対してなにをどう評価しているのかは、教員及びその授業によって多様であることから、今後はループリックとの運用で関連づけるなど、その評価の基準や整合性を明らかにしていくが課題としてあるように思います。

6. 授業時間外学修（事前学修、事後学修）を効果的に活用できましたか。



常勤、非常勤ともに、「できた (14.9%)」もしくは「ある程度できた (53.2%)」と回答した者が計 68.1% であり、「あまりできなかった (30.5%)」もしくは「できなかった (1.4%)」と回答した者が合計 31.9% で、ややばらつきが大きな結果といえます。効果的な活用ができたという結果に対応した自由記述としては、ミニテストや課題、リアクションペーパーの運用に対する工夫や自習用のオンディマンド教材の実施などが機能したことなどが読み取れました。取り組みに関しては学生の個人差があることの指摘も見られました。

なお 2024 年度の授業評価アンケートの全体結果では「この授業 1 回につき、平均してどのくらいの授業時間外学習（課題・宿題、予習・復習）をしていますか」という質問に対して「全くしていない」と回答した学生は 29.9% でした。

授業外時間学修の実態は十分に把握できないものの、教師の意識的な指示によって効果的活用の実現に向かうものと思われます。

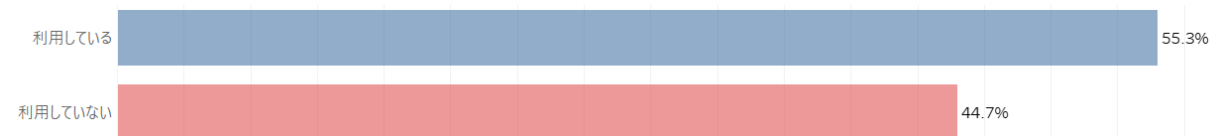
別紙、授業改善のための振り返りチェックシート集計の設問 7（自由記述）には、効果的に活用できたという結果に対応した各先生のさまざまなお取り組みが示されておりますので、ご参考い

ただければと思います。

参考：「大学設置基準」が求める基準

(単位)
第二十一条 各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。
2 前項の単位数を定めるに当たっては、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
一 講義及び演習については、十五時間から三十時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。
二 実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもつて一単位とすることができる。
三 (略)
3 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

7. ルーブリックは利用されていますか。(入力必須)



常勤・非常勤ともに「利用している」と回答した者は 55.3%、「利用していない」と回答した者は 44.7%で、ルーブリックの利用においては大きく二分した結果となりました。

自由記述から、ルーブリックに対する肯定的なコメントとしては、「学生が習得すべき学習内容を把握しやすくなった」、「評価基準が明確になった」などが見られる一方、否定的なコメントとしては、主に「使い方が理解できない」、「効果がわからない」、「効果を感じられない」、「必要性を感じない」などがありました。ルーブリック自体はもともと評価研究に関する中で、学習者のパフォーマンス評価の明示を目的して開発されてきた経緯もあるため、その使用における対象や機能に関する議論があるものと思われます。今後はルーブリックの作成促進においても、その効果とともに、課題や限界に関する理解も進めていく必要があるように思われます。

8. その他、FD 委員会が実施する授業改善に向けた取り組みについての要望。

本調査におきましてこちらの質問にも多数の要望をいただいております。今後は先生方のご意見ご意向を当委員会の運営に反映していくよう努めてまいりたいと思います。こちらは、いただいたコメントの一部です。

ルーブリックに関して	ルーブリックの活用について、学生がどのくらい見ているのかを確認するため、例えば授業アンケートの調査項目にルーブリックを見ている、活用しているかなどを入れて頂けると良いと思いました。
	ルーブリックの活用について理解したい
授業評価アンケートに関して	学生による授業評価アンケートは無記名のため、実際とは異なることについての記述などが見られる。無記名だから何を書いてもよいので

	はなく、学生にも誠実に回答するように、より促してほしい。
	貴学の授業評価において、学生的心声を丁寧に聞こうとする姿勢には大変共感するが、授業時の説明を曲解したり、学生本人の取組が十分でなかったりすることに基づく記述が散見されるように感じている。
対話、研修会、事例の共有の機会実施に関して	クラウドを利用した授業改善研修会の実施をお願いいたします。
	各教員が授業で工夫している点などは直接話す機会がないため、近接領域や課題毎に教員間のトークセッションなどの機会があると良いと思います。
	授業改善の優良実践事例を教員間で共有できるといいかと思います。
	良い授業を録画をしてホームページで紹介する。学科の紹介も含めて各学科一つ以上の紹介があると良いと思います。
	BYOD 推進と連動し、ICT を活用した効果的な授業設計の研修、オンデマンド教材にかかる研修
	典型となる大学授業の創造をめざして、実地的な授業研究会を実施するなどの工夫をお願いしたい。
授業見学に関して	過去の経緯もあるのか、授業見学をネガティブに捉える先生がいる。授業見学が日常的になり、お互いに学び、授業の質を高め合う循環を作ってほしい。
	今年度参観期間が長かったのは大変助かりました。学生の評価が高かった先生のご講義を見に行けるかどうかは時間割次第なので、良い講義はご本人が OK であれば撮影していただいたり、一部公開していただけるとありがたいです。
	授業見学の時間が本当に確保できないので、毎年苦労している。
当大学に関して	毎回、取り組みの報告していますが、それが大学全体の成果につながっているのか実感がありません。
	特に「十文字の学生」に対して教える際に、意識しておくべきこと、気をつけておくべきこと、他の先生達がどのような工夫を行なっているのかを知りたいです。

以上